

皆様、こんにちは。

府中教会、アンドレアです。

「安心しなさい。私だ。恐れることはない。」「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか」イエスは、弟子たちに対して、こう言います。

この物語の中で大切にしたいのは「恐れと疑いから 信頼へ」と言うイメージだと感じます。「信じる」について言いますと、イエスの言葉を日本語に適切に訳すなら、「信頼」という表現になります。「信仰」とは「神に信頼を置くかどうか」といことです。「疑い」とは、神に信頼しないことで、神に信頼せず、自分の力だけで危険に立ち向かおうとするとき「恐れ」に陥るのです。

私たちもしばしば、弟子たちと同じ体験をして、日常生活の中で、手に負えないほどの厳しい困難に遭うのではないのでしょうか。私たちもペトロと同じ「主よ、助けてください」と、神に叫びかけるような状況になったことがありませんか。さらに 時々、私たちもイエスが私たちを助けるために近寄ってくれるのにイエスを「幽霊」だと思っている可能性があるかもしれません。

そして、聖書の中で、海は人間の苦しみや悩みや悲しみなども象徴しています。だから、イエスが水の上を歩くのは特別な力を表しています。というのは、イエスは、創造主であり解放者、海の混乱を支配する者、深い淵から救う者である神と同じ者だということです。さらに、イエスは「安心しなさい。わたしだ」と言います。

人生にも逆風が吹きます。ある時は、困難が行く手をふさぎ、またある時は、自分自身との戦いや、誘惑、決断の苦悩が身に迫ります。しかし、この時にも、私たちは孤独ではありません。なぜなら、イエスは人生の嵐の中で両手を広げて近寄って、静かな、澄んだ声で、「安心しなさい。私だ。恐れることはない」と言うからです。

